

# クワン四国

No.1161  
2016年  
12月号



## 特集

### 高知県木造住宅フェア 第12回もくもくランド2016開催

#### 目次

・特集 高知県木造住宅フェア 第12回もくもくランド2016開催	2
・「高知大学附属小学校・高知城」で樹木教室を開催	3
・日下小学校が局で森林の働きを学習	3
・森林ふれあい推進事業 ～千本山と森林鉄道遺産を訪ねて～	4
・保護林観察ツアーを開催～「コウヤマキの美林」に感動～	5
・「四国山の日賞」表彰式及び「2016四国の森づくりin高知」の開催	5
・国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催	6
・高校生現場実習～農業高校生を対象にした森林環境教育を実施～	6
・各地のたより	7
・12月の行事・イベント情報	16



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 特集

## 高知県木造住宅フェア

# 第12回もくもくブランド2016開催

## 〈技術普及課〉

一〇月二日～三日に「広げよう木づかいの輪」をテーマに高知市中央公園にて「第一二回もくもくブランド2016」が開催されました。

オープニングセレモニーは、朝からあいにくの天気でしたが、大勢の来場者があり、大山四国森林管理局長をはじめ関係者が挨拶の後、テープカットならぬのこぎりを手にしての丸太カットを行い、恒例のもち投げからスタートしました。

高知県産材の普及を目的に開催されたこの催しは、住宅関係の企業や、工口製品等を扱う企業等、様々な業種のブースが六〇店舗あり、それぞれが、親子連れで楽しめるものとなっていました。

四国森林管理局のブースでは、昨年に引き続き、四国山の日賞受賞団体の紹介パネルの展示と、「木のお

もちゃで遊ぼう」をテーマに、クイズ、ビンゴゲーム、ドアノブ飾り作りを行いました。

初日は雨の影響で、局のブースに訪れる子ども達はまばらでしたが、田口森林整備部長による、ラジオ生放送での林野庁の仕事の紹介や、緑の普及係長（DJ西山）のブースの紹介によって、四国森林管理局の活動を積極的にPRしました。

二日目は曇り空でしたが、子ども達がスタート時から大勢集まり、クイズやビンゴゲームを楽しむ一方で、木製のドアノブ作りを楽しみむ子供達もいました。

局のブースは初日こそ雨のため入場者は例年に比べて少なかつたものの、二日目は長蛇の列で大盛況となり両日で約四〇〇名が訪れました。

今後とも、このようなイベントを通じ多くの人々に、木のぬくもりや良さを伝えていきたいと考えます。



テープカットならぬ丸太カット



木製ドアノブ製作中



木のおもちゃで遊ぼう



## 「高知大学附属小学校・高知城」で樹木教室を開催

〈技術普及課〉

九月二十八日、一〇月一二日に附属小学校と高知城において、樹木教室を開催しました。

昨年に引き続き、今年で二回目となります。

九月二十八日は、森林の働きをクイズ方式で学ぶ教室です。「木は浮くか、沈むか」と「水の土壌浸透実験」を行い、森林の働きについて、理解を深めた後、針葉樹と広葉樹の違いについて説明しました。

木と森林に関するクイズでは、硬い木、柔らかい木を学習後、「水に浮くか沈むか」の実験をし、次に「森林の働き」を紙芝居風に説明後、水の浸透実験を簡易浸透実験装置を使って行いました。児童達は、両方の実験がどのような結果になるのか目を輝かせて見てくれました。また、針葉樹（七種類）と広葉樹（六種類）を学校に持参して、葉の種類や、つきかたの違いなどを説明しました。児童達はまず手触りの違いを感じ、葉のつきかたをじっくり観察していました。

最後に、針葉樹と広葉樹に分けてもらいましたが、ナギは広葉樹（針葉樹なのに広い葉、ヒイラギは針

葉樹（針のようにチクチクするから）と予想したとおり間違いがありました。

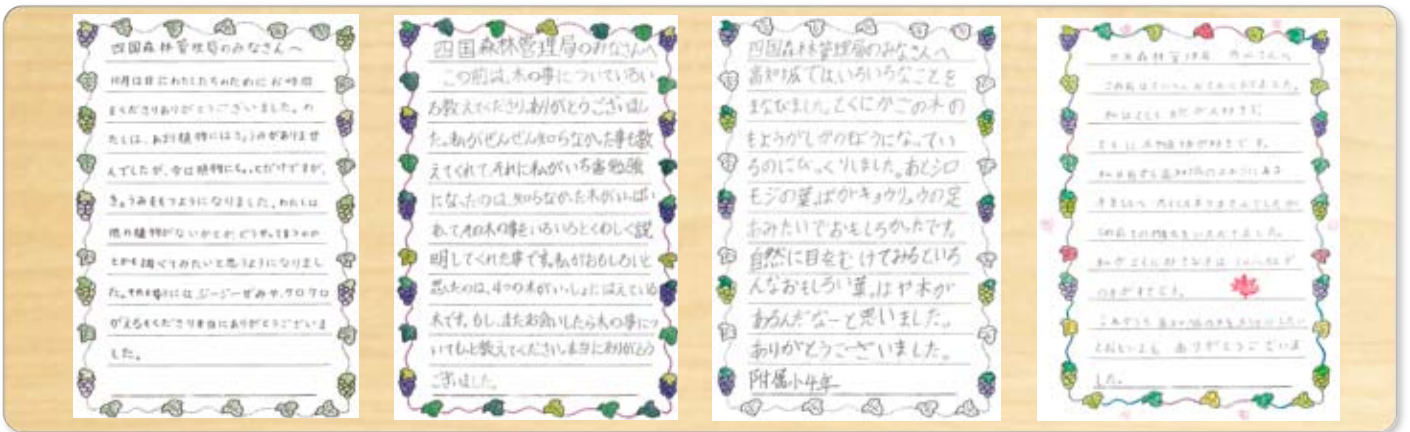
一〇月一二日は、地元の歴史文献『殿様が見た古木達と話そう！』（発行：高知緑と水の会）を参考に、高知城内の奇木・珍木の観察会を催しました。児童達は、事前学習が功を奏し、まず、葉っぱを見て、その木が針葉樹か広葉樹かを観察していました。

児童達は、指導者の説明に、熱心に耳を傾け、説明したことをメモしたり、葉のイラストを描いたりしながらも、散策を楽しんでいる様子でした。

今回の樹木学習をきっかけに、樹木や森林に少しでも関心を持ってもらい、森林の大切さを理解してもらえるよう願っています。



じっくり観察中



## 日下小学校が局で森林の働きを学習

〈技術普及課〉

一〇月一四日、四国森林管理局研修室において、日高村立日下小学校の四年生が森林の働きを学習しました。

この森林学習は、昨年に引き続き、学校側から、『色々な企業に行って学習する。』の一環として要請があり実施したものです。

当日は、最初にクイズ形式で日下小学校周辺の川や山について、学習しました。

次に、樹木学習として、広葉樹と針葉樹の特徴をカードにし、貼り付けるという手法で学習した後、二人一組になって、一二種類の樹木の葉っぱを使って広葉樹と、針葉樹に分別してもらいました。どの児童も一枝一枝じっくり観察し、手触りを確かめ、匂いを嗅いでと、真剣に分別していました。

また、学習に使った「タラヨウ」の葉は別名「ふみの木」といって、手紙がわりにしていたことを説明すると、驚きの声があがりました。

また、森林の働きの一つである「水を蓄える」ことを実験装置を使って説明し、森林のある山の土と森林のない山の土の上に家のミニチュアを置き、それぞれ水を加えると、森

林のない山の土はすぐに流れ出し、家が土砂に埋もれてしまいました。どのようなことが起こるのかと我先にと前へ陣取った児童たちは、食い入るように見ていました。この結果には児童のみならず、先生方も見入っていました。

全児童が最初から熱心に学習してもらい最後の質問では、「タラヨウはどうして字が書けるのか、他にも書ける葉はあるのか」などたくさん質問を受けました。

今回、森林教室を通して、我々スタッフとしても、広葉樹・針葉樹の説明では、使用する葉は学校近くの樹種にすれば、より身近に感じてもらえるのではないかと、といった改善点も見つかった教室でした。今後もし創意工夫した森林教室を行ってきたいと考えています。



広葉樹と針葉樹に分別したよ

## 森林ふれあい推進事業 千本山と森林鉄道遺産を訪ねて

〈技術普及課〉

一月五日、魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアーを公募による二二名の参加者を得て、日本森林林業振興会との共催により開催しました。

当日は、「(馬路村公認) むらの案内人クラブ」の清岡さんに案内をしていただきました。

今年は、馬路から魚梁瀬までの区間の橋(林鉄道遺産の犬吠橋)の通行規制があり、ツアー初の北川村回り(奈半利川沿いを魚梁瀬に向かう)のコースとなりました。

少しバスに揺られる時間が長くなりましたが、その間に、「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを鑑賞し、森林鉄道の歴史について学んでもらいました。参加者は、「この道は初めて通る」「あんな険しい山まできちんと植林されている。」「山が色づいてきたね。」などといった声が聞かれ、車窓からの景色も楽しんでもらえました。

奈半利川沿いの森林鉄道遺産である小島橋・二股橋・堀ヶ生橋の三本の橋を、バスから降りて先達の施工技術などについてむらの案内人より詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた



ヤナセスギとの対面

時代の村の繁栄が偲ばれました。

目的地向かう車中では、むらの案内人から、馬路村の今昔や、森林・林業の歴史など、ユーモアあふれる話術で説明を受け、笑いの絶えない移動となりました。

魚梁瀬の丸山公園では、復元された森林鉄道に体験乗車し、童心に返ると同時に、その振動に、当時の生活を感じる事が出来ました。その後、馬路村ならではのユズやアメゴといった山の幸満載の弁当でお腹を満たし、最終目的地である千本山ヤナセスギ林木遺産資源保存林へ向かいました。

千本山では、登山口にある森の巨人達百選に選ばれた「千本山橋の大杉」の出迎えに参加者達も圧巻さ

れ、しばらくの間足を止め、大杉に見入っていました。そしていざ、標高九〇〇mの展望台を目指しましたが、例年と比べ、ワイワイ賑やかな楽しい登山となりました。

天候にも恵まれ、登るにつれ、少し汗ばむようでしたが、全員が無事展望台まで登ることができました。樹齢二〇〇年〜三〇〇年のヤナセスギ美林とのふれあいで、満足した様子でした。

参加者からは、「山のおいしい空気も吸えて、素晴らしいガイドさんの案内もあり、最高の一日になった。」「杉が天にそびえるような立派さに感動した。」などの感想をいただき、自然の大切さを感じていただけたと同時に気分もリフレッシュできた一日となったのではないかと考えています。



森林鉄道



## 保護林観察ツアーを開催 「コウヤマキの美林」に感動

〈技術普及課〉

一月二日、一般公募により参加者二名による津野町にある保護林（小筋畝山コウヤマキ林木遺伝資源保存林と四万十源流郷土の森）観察ツアーを行いました。

今年のツアーは奥四万十博が開催中ということで、それに賛同して、昨年に引き続き、四国仰山会との共催企画により、開催しました。

参加者は、急峻な畝筋を落石などが無いよう足下を十分確認しながらも、「ツクシシヤクナゲがたくさん。アケボノツツジの花も綺麗だけど黄葉もいいね。」コウヤマキやヒノキの稚樹を見つけては「日があまり当たらないから、どこまで大きくなれるかな」などと話しながら、一面のコウヤマキの落葉に驚き、約一時間かけてコウヤマキの群生する所まで登りました。

コウヤマキの巨木は樹高が約40m、胸高直径が一・四mあり、世界有数の大きさを誇ります。その群生箇所は、見晴らしが良く、ゴツゴツした岩場にしっかりと、太い根を回し、まっすぐ伸びたコウヤマキに一同「頑張って登ってきた甲斐があった。」達成感がある。「と木々の生命力の強さに疲れも吹っ飛び、逆に

パワーをもらっているようでした。昼食は、地元で採れた野菜などの食材を使った食堂で摂り、あまりの美味しさに大半の人がつい食べ過ぎてしまったようです。

午後は、「風の里公園」から、緑の山々に立ち並び巨大風車を眺め、広場でゆつくりと天狗高原や鳥形山、遠くは石鎚山や本川の山々まで眺望を楽しみました。

ツアーの締めは、日本最後の清流と呼ばれる四万十川の源流点を目指し、清水が岩肌の間を縫うように流れる音に耳を傾けながら登るルートです。源流点につくと記念写真を撮ったり、岩を流れ落ちる水を手にとり、口に含み「甘くておいしい。」と、のどを潤し、森林の恵みに感謝していました。

今年も道中の道幅が狭いため、ジャンボタクシー三台に分乗してのツアーでしたが、車中からの紅葉も美しく、また、同乗の方達と話が盛り上がったツアーとなりました。

## 「四国山の日賞」表彰式 及び「2016 四国の森 づくりin高知」の開催

〈技術普及課〉

一月二日、三日の両日、四国の森づくりネットワーク主催による「2016 四国の森づくりin高知」

が『地域の森や未来を切り開く』をテーマに開催され、第一日目に平成二八年度「四国山の日賞」表彰式が四国森林管理局で実施されました。

四国山の日賞は、平成一六年に四国四県と四国森林管理局が行った「四国の森づくりに関する共同宣言」の趣旨に沿った取組を積極的に推進している団体等を表彰し、その取組を広く紹介することにより四国山の日のPRすることを目的として平成一八年度に設けられ、今年で一一年目となります。

今回、受賞された団体は次のとおりです。

- 森林整備部門  
・羽床地区里山の景観を守る会  
（香川県）
- ・特定非営利活動法人 朝霧森林倶楽部  
（高知県）
- ・こつち森林救援隊  
（高知県）
- 森林環境教育部門  
（高知県）

- ・徳島県勤労者山岳連盟（徳島県）
- ・森林女子（徳島県立城西高校神山分校生活科）（徳島県）
- ・南宇和地区林材業振興会議  
（愛媛県）

- ・アジロ山の自然と環境を守る会  
（高知県）

受賞団体は大山局長から表彰状を受け取った後、日頃の取組について報告を行いました。

続いて、高知県内の森林保全活動報告と題して、県内で活躍しているボランティア団体から報告がありました。こつち森林救援隊事務局長の中川睦雄氏、土佐の森・救援隊事務局長の片岡正法氏による報告や佐川町長の堀見和道氏から「自伐型林業を核とした雇用づくりと地域活性化」について講演があり、参加された方々は熱心に聞き入っていました。

二日目は、森づくり体験コースやこつち山の日関連イベントの四コー



森林整備部門受賞者



森林環境教育部門受賞者



堀見佐川町長の講演

スに分かれ、参加者には活動や体験をおして、木や山に親しんだり、四国の森づくりについて理解を深めていただけたと思います。

## 国有林野等所在市町村長 連絡協議会を開催

〈企画調整課〉

一月七日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催されているものです。

会議には管内七署（所）の有志協議会の代表世話人である市町村長、大山局長をはじめとする局幹部、林野庁から松村管理課長、今泉森林利用課山村振興・緑化推進室長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議事進行により、今年度のテーマである「民有林と国有林が連携した地方創生への取組」について、意見交換を行いました。

市町村長から出た、主な意見・提言等は次のとおりです。

○国有林が中心となったシカ被害対策を。

○シカ肉をジビエに加工する際は産業廃棄物が出るが、処理場が遠く経費と時間を要するので採算が合

わない。

○CLTやバイオマス発電の普及によりC・D材の需要が増えているが、A・B材の利用の促進を図らなければ材価は上がっていかない。

○コンテナ苗は活着率が高いと聞くがコスト削減のために保安林内の植栽本数の削減は出来ないか。

これらの意見・提言等について、熱心な意見交換が行われました。四国森林管理局としても、これらを踏まえ、より一層公益重視、民国連携を推進し、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。

## 高校生現場実習

〜農業高校生を対象にした 森林環境教育を実施〜

〈治山課・森林整備課・技術普及課〉

四国森林管理局は、高知県立高知農業高等学校森林総合科の全学年を対象にした森林環境教育に取り組んでいます。

この森林環境教育は、森林総合科のカリキュラムとして実施されており、一年生二四名が干本山登山を行い、二年生二名が治山工事を、三年生一八名が林道工事の現地見学を嶺北森林管理署管内において行いました。

治山工事では、大豊町の「既設ダ

ム工」を遠望しながら、治山の概要や治山工事の必要性についての説明を受けた後、昼食後は地すべり防止排水トンネル工事の治山現場見学を行いました。

この地すべり防止排水トンネルは四国森林管理局で、初めてとなるNATM（ナトム）工法を採用した構造物となります。延長約六〇〇mの大規模な構造物に驚いた様子でしたが、トンネルの中にて、工事の詳細及び工事行程のDVDを見て、一連の工事の流れを学習し、家屋や田畑、道路等の財産や人命が守られていることの理解を深めていました。

また、工事の規模や大型の機械に興味を示した生徒も多く、これらについてたくさん質問がでており、治山担当者や現場の担当者の説明を熱心にメモをとっていました。



排水トンネル工事の説明

林道工事では、大川村小南川山国有林内、脇の山林道災害復旧工事の施工について説明を受けました。残念ながら、授業で学習している最中という新設工事ではなかったのですが、土木担当者の「林道事業の概要と林業専用道」についての説明や、現場工事担当者から、施工の技術面について説明を受け、生徒達も真剣に聞き入っていました。

両工事とも、授業で図面や写真だけでなく習うのではなく、普段見る機会の少ない現場や施設、工事機械を間近で見て、様々な現場の声を聞き、仕事の大変さも痛感したようでした。

今後とも、四国森林管理局では、林業を専門に学んでいる高校生の学習支援に取り組んでいきます。



林道工事の説明



# 各地のたより



## 三校で八面山登山体験学習

〈四万十ふれあい推進センター〉

キオンの花が咲きアサギマダラが羽を休め、秋の装いを見せている八面山に、一〇月六日、四万十市立西土佐中学校二年生二名と教諭三名、一〇月二日には愛媛県松野町立松野西小学校四年生一八名と教諭二名、そして、一〇月二日には四万十市立西土佐小学校五年生一名と教諭三名を案内して、八面山登山体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、



西土佐中学校 木漏れびキャッチの様子

歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約五分で八面山山頂（一、一六五m）に到着しました。山頂で

は、高知県と愛媛県の県境を説明し、遠くに見える二本杭のすぐ右の山、横の森という所に藩政時代、土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「二本杭」という現在の山の呼び名になっていることを話すと、驚いていました。

その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、職員より、「ブナ天然林の価値」や「森林のはたらき」などを説明した後、自然散策やネイチャーゲーム等をして秋の一日を楽しましました。

後日、西土佐中学校より送付された生徒の感想文には、「学校での事前学習や山での学習で、シカのみならず被害がとも多いことがわかりました。このため、いろいろな対策をしていることをはじめて知りました。登山では出会うことのなかったシカはこの山の中にどの位いるのかなど新しく知りたいことなども沢山増えました。」前まで知らなかった山のこと、動物たちのこと、山は人間の手の入れが必要なことなど、今回

## 各地のたより 目次

- 四万十川ふれあい推進センター
- 高知中部森林管理署
- 高知中部森林管理署
- 四万十川ふれあい推進センター
- 徳島森林管理署
- 香川森林管理事務所
- 安芸森林管理署
- 愛媛森林管理署
- 香川森林管理事務所
- 四万十森林管理署
- 森林技術・支援センター
- 四万十川ふれあい推進センター
- 四万十川ふれあい推進センター
- 愛媛森林管理署
- 徳島森林管理署
- 香川森林管理事務所

の山登りを通してとても良い経験になりました。」との感想があり、この森林教室で、実際にブナやミズメの木、森林の土や落ち葉に触れたり、周囲から聞こえてくるわずかな音を一分間耳をすませて聞きとることなどの体感を通して、自然や森林への興味・関心が深まったと実感しました。



西土佐小学校 八面山山頂にて、はいポーズ

## ボランティアによるニホンジカ被害防止活動について

〈高知中部森林管理署〉

一〇月一五日（土）、当署管内の三嶺、白髪山周辺における通称「カヤハゲ」及び「みやびの丘」周辺において「三嶺の森をまもるみんなの会」の協力を得て、ボランティアによるニホンジカ被害防止対策（土砂流出防止マット設置）を実施しました。

当日の参加者は、高知県、香美市、南国市の職員、JA土佐香美職員、大学生、高校生等幅広い分野の一般参加者等、総勢七八名（七班編制）の方々に協力をいただきました。

開会に当たり署長から「三嶺の森をまもるみんなの会」のこれまでの活動に対する感謝の気持ちとボランティア活動の参加者に対するお礼、また、三嶺のニホンジカ被害の実態やボランティア活動の貴重な経験を生かし、自然環境の重要性を広める活動と協力要請等について話を致しました。

当日は、晴天に恵まれ、遠くには、石鎚山や土佐湾が一望できる絶好の作業日和の中で、昨年に続いて参加いただいた方々にリーダーシップを発揮していただき、段取りよくマット設置作業をこなし予定時間より早

く完了しました。参加者全員が心地よい汗をかき、やり遂げたあとの達成感に満ちた表情であったことが印象的でした。

今回のボランティア活動では、大勢の方々に、三嶺周辺におけるニホンジカ被害の深刻な状況を確認してもらおう一方で、昨年及び一昨年の土砂流出防止マット設置箇所において、着実に植生が回復している現状を確認いただき、この活動の成果や対策を講じることの重要性を再認識していただけたと考えています。

当日、参加していただいた皆様にお礼を申し上げるとともに、今後におきまして、ニホンジカ食害防止活動へのご理解とご協力をいただき従来の緑豊かな森林が復活できることを期待しています。



マット設置作業

## 三嶺で山岳遭難救助訓練の実施

〈高知中部森林管理署〉

三嶺（標高一八九三m）において南国警察署、香美市消防署および当署職員の総勢二二名が参加し「山岳遭難救助訓練」を実施しました。

この訓練は、山岳遭難救助技術の向上、登山ルートおよび危険箇所の把握、消防署と警察署航空隊との連携強化および無線不感地帯の把握を目的として行われました。

訓練内容は、三嶺山頂付近において登山者一名が滑落、遭難して音信不通になったと想定し、救助要請を受けた警察署および消防署が空陸の両面から遭難者を捜索。発見後はヘリコプターによる遭難者のホイスト救助（吊り下ろしたケーブルでの救助）、ヘリコプターから遭難者への救援物資の投下等が行われました。

訓練参加者からは「実際に自分の足で登山することで身をもつて距離感がつかめたことは良かった。」との意見がありました。

また、当日は概ね晴れていたものの時折霧が立ちこめて視界不良となることが多々あり、山における天候変化の多さを実感していました。

登山道で出会った登山者からは「このような訓練を実施して下さるのには登山する者として大変心強く大

変ありがたい。」との声が聞かれました。

今後このような訓練を通じて、他機関との連携・交流を深め、登山者の遭難救助はもとより国有林における請負事業者等の災害救助にも役立つよう訓練を行っていきます。



ホイスト救助

## 見てびっくり、知ってびっくり森林や土にすむ生物のはたらき

〈四万十ふれあい推進センター〉

一〇月二〇日、宿毛市立松田小学校五年生七名と六年生五名の計一二名を対象に、「森林のはたらき」と「土にすむ生物」の森林環境教育を実施しました。



土を掘り起こして

「森林のはたらき」の講義では、森林が、私たちの暮らしをどのように守ってくれているのかについて説明しました。

「土にすむ生物」の講義では、土壌層の違いや土壌動物・土壌微生物の種類とその役割について説明しました。

児童達が一ヶ月前に自分達で埋めておいた「野菜」、「葉っぱ」、「ペットボトル・空き缶」がどのように変化しているかを掘り起こして確認すると、「野菜」がいくら探しても見つからず、完全分解されて土に変わっているのを見てびっくり。「葉っぱ」は、分解が進んで、葉がポロポロになっており、葉っぱの下の土にはハサミもいてびっくり。土にすむ生物が「野菜」や「葉っぱ」の有





実体顕微鏡を使って

機物を分解して、再び植物が根から吸収・利用できる養分（ミネラルなどの無機養分）にしているんだということを知って驚いていました。

一方、「ペットボトル・空き缶」は全く変化しておらず、「ミ」を捨てないことの大切さも理解してくれました。

土にすむ生物の観察では、真剣に実体顕微鏡を覗きながら生き物を探しました。そして、見つけた生き物の姿をスクリーンに映し出すと児童から、歓声が上がりました。

後日届いた感想文では、「食物連鎖で一番びっくりしたのは、どんなに強いタカやイヌワシでも、死ぬば土にすむ動物や微生物に分解されて森林の養分になっているところですよ。」と書かれており、この講義

と観察を通して、土壌動物や普段は目で見るこのできない土壌微生物が、実は大切なはたらきをされていて、物質循環が絶えず森林の土の中、川の中、海の中で行われていることを理解してもらえたものと思います。

**とくしま木づかいフェス**  
2016で木工教室

〈徳島森林管理署〉

とくしま木づかい県民会議が主催した「とくしま木づかいフェス2016」が10月22日・23日の両日、あすたむらんど徳島で開催され、徳島森林管理署から木工教室のブースを出展しました。

「開校！森林（もり）」と木のあおぞら教室」をテーマにした今回のフェスでは、県内の森林・林業関係者のほか、積み木などの木製おもちゃを取り扱う業者など幅広い業種が参加するなど盛り上がりを見せ、両日、県内外から多くの方が訪れました。

徳島森林管理署のブースでは、両日雨が降る天気にも関わらず、二日間で約二二〇組の親子が訪れ、職員が森林（もり）の手入れの際などに採取した木の枝や実などを材料に、子供たちは思い思いの手作り作品づくりに没頭していました。

ブースを訪れた子供たちは、「かわいい！」「上手にできました！」などの歓声を上げていました。

徳島森林管理署では、このような活動を通じて、木材利用の重要性に対する県民の理解の醸成を図っていくこととしています。



親子で楽しく作業



参加された方の作品



林野庁長官代理として祝辞を述べる三浦林政部長

**高松市で全国林材業労働災害防止大会開催**

〈香川森林管理事務所〉

10月25日、第五三回全国林材業労働災害防止大会（主催：林業・木材製造業労働災害防止協会）が、高松市のサンポートホール高松で開催されました。

この大会は、全国の林材業関係者が一堂に会し、労働安全衛生に対する意識の高揚を図るとともに、全国の林材業に携わる者のみならず、関係官庁に対しても労働災害撲滅への強い決意を発信、参加者全員が「労働災害ゼロ」を目指し、誓い合っています。



来賓の浜田香川県知事

香川県で初めて行われる同全国大会、林業関係者が少ない土地柄にもかかわらず、香川県林業・木材製造業労働災害防止協会ははじめ関係各位が尽力した結果、九六二人もの参加者が会場を埋め尽くしました。

一三時からの地元保存会による和太鼓演奏アトラクションを皮切りに、特別講演「仕事の流儀」寄り添いあう目標の作り方」の後、大会式典が始まりました。主催者による挨拶、厚生労働大臣、林野庁長官、香川県知事、高松市長による祝辞の後、功労者表彰、活動等紹介があり、最後に大会宣言として今年から香川県森林組合連合会の現場部門で若手のホープとして活躍している前田宏美さんが労働災害ゼロに向けた誓いを力強く表明し、無事幕を閉じました。

なお、四国森林管理局からは大山局長、川脇総務企画部長らが来賓として出席、翌日にはさっそく香川所管内の生産請負現場に向いて、労働災害撲滅に向けて安全パトロールを実施しました。



大山局長、川脇総務企画部長らによる安全パトロール



目指すは「労働災害の撲滅」

### 未立木地現地検討会を開催

〈安芸森林管理署〉

一月二日、署担当職員、森林官等約二〇名が参加した未立木地現地検討会を実施しました。

労働災害撲滅に向けて安全パトロールを実施しました。

当署は来年度に五年に一度の森林計画の樹立のための編成作業を控え、山を見る目を揃える取組を進めているところです。今日の検討会もその一環となるもので、局からは、アドバイザーとして計画保全部長、計画課、治山課が参加しました。

現地は大井森林事務所管轄内の公道脇の伐跡地で、すぐ脇では治山(山腹工)事業も行われている急峻な斜面です。当該箇所は平成九年に植付、平成一一年まで下刈が行われましたが、以後、道路災害のため保育作業が中断したままになった箇所、現在は広葉樹が侵入し灌木状に育ち、植栽したスギ幼木と混ざり合っている状況です。

参加した森林官等からは、「すでに成長しているのでこれ以上の手入は不要ではないか」「公道のすぐ上で一般車両の往来もあり、まだ裸地のままの箇所も見えるので補植等するのはどうか」「すでに全体が広葉樹主体の樹木に覆われており、更新完了及び天然林編入を考えると良いのではないか」等の様々な意見が出されました。

局からは、「小班の上にはツガ、カシ等の天然母樹があり、今後天然更新が期待できる」「更新完了は基準に適合するかの調査が必要」「一般車両の通行する公道上の急斜面であり、一層斜面の安定に配慮する必要が



未立木地の状況

る」「ここで天然林に見直すより、手を入れる余地を残した複層施業地にしておく方が有利」「更新完了時には治山事業地との切り分けを行うべき」といったアドバイスがあり、これらを勘案すれば、「当面の間は、今のまま経過観察としておくことが適切」とのまとめになりました。

当署管内には、各森林事務所にこのような未立木地扱いの林地があり、森林官及び各担当者には、どのような因子を見て判断するのかなど今後の施業を考える良い検討会となりました。

事業実行の効率化が強く求められる昨今、職員には「この林地をどう判断して、どうしていくのか」とい



う山を見る力が一層重要となつてい  
ます。皆さんが考えを自由に出し合  
い、答を見つけていく場として、今  
後も機会を見つけて実施できればと  
感じた一日でした。

## 天然更新の 現地検討会を開催

〈愛媛森林管理署〉

一月八日、当署小田第一森林事  
務所内の小田深山国有林において、  
局・署関係者一〇名と愛媛県、森林  
整備センター松山水源林整備事務所  
関係者七名が参加して、天然更新に  
係る現地検討会を開催しました。

今回の現地検討会は、本年五月に



天然更新状況を確認



意見交換の状況

改訂され  
た「森林・  
林業基本  
計画」の  
中で、急  
傾斜地・  
高標高地  
など自然  
条件等が  
悪い森林  
等におい  
て、広葉  
樹の導入  
による針

広混交林への誘導など多様な整備を  
推進することとされたことから、天  
然力を活用した多様な森林づくりに  
係るノウハウの集積を目的に開催し  
ました。

検討会は、平成八年に群状・帯状伐  
採し天然下種更新が行われ施業指標  
林を設定した箇所で開催され、事前  
に設置した二箇所のプロット内の天然  
更新状況を現地で確認することも、  
天然更新に必要な条件等について参  
加者全員で意見交換を行いました。

現地は標高が約一〇〇mと高標  
高地で、下層植生に笹も繁茂してい  
ましたが、両プロットとも平均樹高  
は5mに満たないものの、有用天然  
木の稚樹がha当たり四〇〇本以  
上発生しており、更新そのものは図  
られていました。

参加者からは、天然更新には母樹の  
影響が大きいことや、標高により更  
新樹種も変わるのでより多くのデー  
タの集積が必要など多くの意見が出  
されることも、愛媛県においては現  
在民有林の天然更新完了基準の見直  
しを検討しており、引き続き国有林に  
対し情報提供の依頼があるなど、有  
意義な現地検討会になりました。

## 屋島国有林「遊々の森」 で森林教室プログラム を実施

〈香川森林管理事務所〉

一月四日(金)、屋島国有林「遊々  
の森」において、高松市立屋島東小  
学校の児童三〇四年生(五四名)を  
対象に森林教室を実施しました。



ネイチャーゲームの様子

まず、山崎森林整備官が模型やパ  
ネルを使って、森林に生育している  
木々や生物の重要な役割について児  
童に質問を交えながら説明を行った  
後、土壌給水実験を開始、模型を使っ  
て土に覆われた斜面にシヨロ口で水  
を流し、その斜面の土が一気に流れ  
崩れる様子や、立木を立て落ち葉を  
敷き詰めて森林に見立てた模型に、  
同じように水を流すと、水の勢いは  
弱められ土の流失があまり起きない  
様子を確認してもらいました。また、  
模型の下に設置した筒に向けて、土  
の層から流れ落ちる水を見て、「水  
が透き通っている」、「ゆっくり流れ  
落ちている」などの感想が寄せられ、  
みんなが実験について理解してくれ  
たようです。

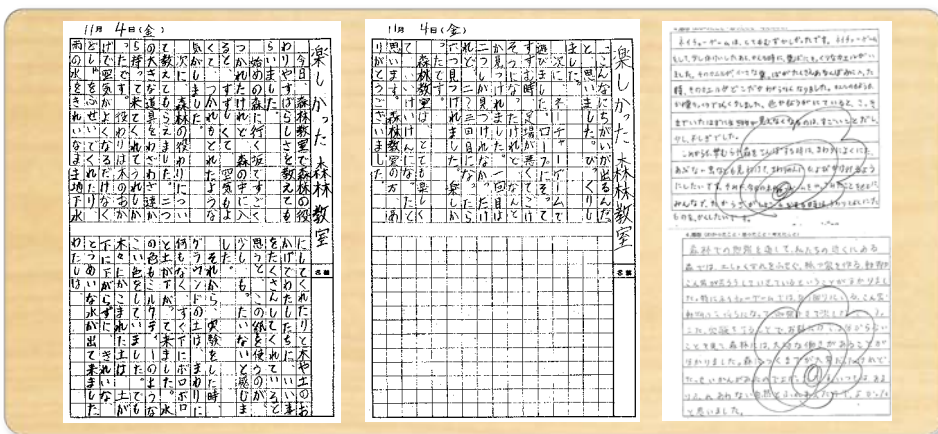


土壌給水実験の様子



実験のあとは、森の中に目立たないように置かれた物を探す「カモフラージュ」というネイチャーゲームを行いました。児童の中には、鋭い観察力であつという間にすべてを見つけてしまう子がいる一方、なかなか見つけれない子もいましたが、それでもみんなでゲームを楽しむことができました。

最後に、今日学んだことは、お友



達や家族に忘れないうちに伝えていただくようお願いし、無事に森林教室を終了することができました。屋島東小学校からは、児童一人一人から感想文が届くことになっており、楽しみにしています。

## 「幡多山もりフェス」開催

〈四万十森林管理署〉

幡多地域の森林資源や林業について理解を深めてもらおうと「幡多山もりフェス2016」が一月六日(日)、四万十市不破の四万十川河川敷で開催されました。

この催しは、「続 世代をつなぐ山仕事」をテーマに「幡多地域の林業のPR」、「幡多地域産材の利用促進」、「木材とのふれあい」を目的とし、幡多地域の七森林組合で組織する実行委員会の主催で平成一五年から開催され、第四回となる今年は、林業機械や住宅建築など四〇団体から出展がありました。

当日は、秋晴れの絶好の天気恵まれ、約五〇〇〇人の来場者がありました。森林の仕事を紹介するブースや高性能林業機械及びシュミレーターの展示、森林相談や木工品販売、B級グルメなどの多彩な出店をおもいおもいに見て回るとともに、リースづくりや、山のクイズ、林業機械体験乗車等を親子で楽しん

でいました。当署も協賛団体として準備段階より関わり、四万十川森林ふれあい推進センターとともに丸太を大のこぎりで挽く体験やかんたん木工教室、森林林業クイズなどを実施しました。

この幡多山もりフェスは、日頃、森林や林業にふれる機会の少ない都市部の住民に、森林・林業の現状や木材をPRすることを大きな目的としており、さらに、幡多地域で林業に関わる若手が一堂に会して会場設備準備から後始末まで協力して行うことにより結束を強めることができるとして定着しつつあります。

四万十森林管理署では、こうした地域の取り組みに積極的に参加し、



木工品販売 かんたん木工教室

地域の皆さんと一緒に頑張って森林や林業のPRを行っています。



盛り上がった〇×クイズ

## 「シカ被害地での低コスト

### 再造林」現地検討会を開催

〈森林技術・支援センター〉

一月一〇日、高知県四万十町のコピ穴山国有林(森林技術・支援センター試験地)において、高知県、森林総合研究所四国支所、四国森林管理局の合同主催により現地検討会を開催しました。

大きなコストのかかるシカ被害対策を含む再造林の低コスト化は、民間とも喫緊の課題として、全国的に有効な手段についての実証試験などに取り組んでいることから、今回の参加者は、四国四県はもとより、石川県や京都府など一府八県の、国、





総数 110 余名の参加者

地方公共団体、研究機関及び民間林業関係団体等総勢一〇余名の参加がありました。  
 現地検討会では、開会にあたり、当局の田口森林整備部長から「低コスト再造林など喫緊の課題の早期改善に向けて重要となる、関係者間での情報共有・連携を進めながら、林業のトータルコストの低減に繋がる取組を強化したい。」旨の挨拶がありました。



ドローン飛行実験

その後、主催機関等が取り組んでいる以下の八課題「コンテナ苗及び一貫作業システムの実証試験」（高知県立森林技術センター）、「皆伐地でのくくりわなによるシカ捕獲の実証試験」（高知県鳥獣対策課）、「エリートツリー等の開発状況」（森林総研四国支所）、「植生によりシカ被害リスクを判定する手法など」森林総研四国支所）、「開発した囲いわなと捕獲試験の分析」シカ防護ネットの低コスト化・保全効果の強化等の工夫」ドローンの導入及び活用状況「簡易な苗木防護器材の実証試験」（四国森林管理局）について報告しました。



囲いわな組立て実演

報告では、ドローン飛行、わなの設置・稼働、苗木防護器材の施工の実演や、現地の植生、会場に施工した改善シカ防護ネットの確認などを交え、取組内容が分かり易く紹介されました。

参加者からは、各課題への熱心な質問等に加え、有効なウサギ被害対策や全体的に金網柵等侵入阻止に重点をおいた防護柵の施工をしているなど、多様な参加機関の取組・現状について情報共有を図ることができた有意義な検討会となりました。

今回のテーマは、全森林管理局において主要技術開発課題等として取り組んでいるところですが、多様な機関の皆さんと直接意見交換をすることで、改めて、民有林との情報共有・連携を強化するとともに、局署（所）をあげて、事業レベルでの低コスト化の実証等を推進し、課題の早期改善・解決に向け貢献していく必要があることを再認識したところです。



生分解資材による苗木防護柵設置実演

なお、地元放送局の「高知さんさんテレビ」の取材があり、翌日夕方のテレビで報道されました。

## しまんと黒尊むらまつり

〈四万十ふれあい推進センター〉  
 秋も深まった十一月二日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で、第一一回目となる「しまんと黒尊むらまつり」が黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で開催されました。

当センターからは、「体験コーナー」の担当で参加しました。  
 当日は秋晴れの晴天となり、土佐清水市からの団体客など沢山の来場者で賑わい、老若男女にイスノキ製のマイ箸作りや、ミスメなどの小枝



や杉板の輪切りで、クマのストラップ作り等を楽しんでいただきました。メイン会場となった親水公園では、地元の食材をふんだんに使った巻き寿司、炊き込みご飯、山菜おこわ、もち、猪汁、シカの串焼きなどが所狭しと並び、買い求める人の行列が絶えませんでした。

黒尊深谷の紅葉を楽しんでもらおうと企画された「神殿橋紅葉狩りツアー」も人気で、来訪者は地域の料理を食べて、紅葉を見て、秋の黒尊を満喫されました。



しまんと黒尊むらまつりの会場の様子



マイ箸、ストラップ作り等の体験コーナー

## 土にすむ生物の観察と山の模型を使った水の土壌浸透実験

〈四万十ふれあい推進センター〉

一月二五日、宿毛市立小筑紫小学校五年生を対象に、本年度第四回目の森林環境教育を実施しました。最初に、「土にすむ生物」の講義で、土壌層の違いや土壌動物・土壌微生物の種類とその役割について説明しました。

事前に観察用の土を準備した土にすむ生物の観察では、時間を忘れて実体顕微鏡を覗きながら、肉眼では見ることのできない土壌微生物などの生き物を見つけ出しては、スク

リーンにその姿を映して、みんなで観察しました。この講義と観察を通して、土にすむ生物の存在に気づき、そのはたらきについても理解することが出来ました。

次に、山の模型を使って「木のある山」と「木のない山」を再現し、二班に分かれて、じょうろに入れた水で、雨に見立てて降らせて時間の経過と共にどういふ変化が出るのか実験・観察をしました。木や枯葉を通して出てくる水は、薄い濁りで計量カップに溜まっていくのに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、一気に濁った水が計量カップに溜まる様子を目の当たりにし、家の模型が傾いて、土がはがれて緑色の底板が見えたりと、児童達から「土砂崩れだ」とさわめきが起こり



実体顕微鏡を使って観察中



水の土壌浸透実験の様子

ました。両方の模型と、入れた水の量や出た量を計算して、その違いを比較するなど、この実験の様子を、しっかりとメモをとって学習をしていました。

実験後には、パネル等を使って、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「水を育む」など大切な働きがあることをふりかえり学習しました。

最後に児童から、今日の実験等を通じて感じたことの発表があり、「木のない方の山側には、家を建てて住みたくないです。」「木のない山の方が木のある山より、水が多く出ていました。水の色も全然違った。」「緑のダムとはこういうことか」等の感



想が述べられました。  
森林環境教育の回数を重ねるに連れ、森林のはたらきや身近な自然の大切さについての理解が一層深まったと感じました。

なお、三学期には、次回が第五回目となる森林環境教育（炭焼き体験）を実施する予定です。

## 木魂神社秋季祭・記念市に参加

〈愛媛森林管理署〉

一月一六日、宇和島市にある大木坑木（有）において恒例の第四一回木魂神社秋季祭と記念市が開催され、当署署長ほか関係職員が出席しました。

まず秋季祭には、当署、愛媛県南予地方局、宇和島市の行政機関をはじめ市場への出荷事業者や買方である製材所等の代表者が参加して、敷地内に設置された木魂神社に参拝しそれぞれの事業の安全を祈願しました。

また、当日は秋季祭に併せて記念市も開催され多くの買方者が参加する中、委託販売材として当署から約一〇〇立方m、四万十署から約三〇〇立方mの合計約一三〇〇立方mが出材され、市売りされました。

市のメインコーナーには、当署の



秋季祭の状況

八幡山国有林から生産されたヒノキ高齢級の優良材が一本から五本程度づつ仕分け・極積みされ、競り子の威勢の良いかけ声とともに、次から次へと競り落とされていきました。

その結果、当署分では、最高値が径級四六cm、長級四・〇mのヒノキに、m当たり一二万円を越える値段がつくとともに、スギの平均入札単価はm当たり約一〇、九〇〇円、ヒノキの平均入札単価はm当たり約一五、八〇〇円で取引されました。

当署としては、引き続き市場関係者と綿密な協議を行いながら、その情報を生産現場にフィードバックして市況動向に応じた最適な採材を行うように指導していく考えです。



市売りの状況

## 徳島県優良木材展示即売会に国有木材を出材

〈徳島森林管理署〉

一月一七日、第五七回徳島県優良木材展示即売会が、小松島市のゲンボク小松島で行われ、徳島森林管理署から落合国有林一五一林班で生産したスギ、ヒノキ材約一五〇mを出材しました。

今回の優良木材展示即売会には、徳島県内の国有林、民有林からスギ、ヒノキなど約一、〇〇〇mの優良材が出材され、威勢の良い掛け声の下、出材された全ての木材が落札されていきました。

徳島森林管理署では、今後利用期を迎える人工林が増大していくこと

から、現地の状況に応じた適切な伐採・搬出・販売を行うなど、木材の計画的・安定的な供給に努めていく考えです。



優良木材 品定め中

## 「源平屋島の森」でポラントティアによる森林整備を実施

〈香川森林管理事務所〉

一月二〇日（日）屋島国有林「源平屋島の森」において、高松市立屋島東小学校の児童や先生方、保護者、地元自治会など、総勢五〇名を超えるボランティアによる森林整備を実施しました。

この森は、平成一七年度に、観光地・屋島の貸付跡地で森林再生を実施しようとした際、ヤマザクラ、クヌギ、イロハカエデなど四季を通じ



絡んだつるの取り除き

て親しんでもらえる樹種を選定のうえ、「源平屋島の森」と命名して地元自治会や小学生を中心としたボランティアの皆さんと一緒に実施、以後毎年地域ぐるみで森林整備を続けてきました。

これまでは、下草刈りやつる切りを中心とした作業を行ってきましたが、植栽した木々も順調に生長を遂げ立派になったことから、今年は、林内環境をより良くしようと不要な枝の切除や剪定、絡んだつるの取り除き等の作業を行うこととしました。

当日は、九時から屋島東小学校で開会式を行い、当所長や校長先生によるあいさつ、総括森林整備官による注意事項等の説明後、みんなで森に移動し、小春日和のなか気持ちいい汗をかきながら一生懸命に手入れ



ボランティアありがとうございました

を行いました。

児童の中には、「自分でのこぎりを使ってみたい」と保護者や職員に使い方を教わりながら一生懸命チャレンジする子や、親より手際よくのこぎりを使いこなす子など、終始賑やかな笑い声が絶えない中、約二時間をかけ無事に作業を終えました。

「源平屋島の森」でのボランティア作業は、目的が概ね達成できたことから、本年度の作業を以て一区切りすることとしており、これまでの活動に参加・協力頂いた関係者にお礼を伝え、作業を終了しました。作業した子どもたちが大きくなった頃には、きっと立派な森に成長していることでしょう。

## 12月の行事・イベント情報

平成 28 年 12 月 07 日 (水)

技術開発連絡会議

【四国森林管理局】

平成 28 年 12 月 12 日 (月) ~ 12 月 16 日 (金)

リスク管理監査

【香川所、愛媛署、四国森林管理局】

平成 28 年 12 月 12 日 (月) ~ 12 月 16 日 (金)

森林の収穫研修

【四国森林管理局】

平成 28 年 12 月 13 日 (火)

技術開発委員会

【四国森林管理局】

平成 28 年 12 月 20 日 (火)

コウヨウザン協定締結

【四国森林管理局】

